大源太川北沢本谷

平成２３年９月１８日（日）
Ｌ白土、剱持

　沢集中が急遽悪天候で中止になったため、日帰りで沢へ出かけることにした。天候が心配だったが、なんとかもつのでは、と期待して上越に向かった。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

　前夜は大源太山登山口の駐車場で仮眠。車中泊をしたら思いのほか暑くて汗をかいてしまった。

　５時に起床し、沢支度を整えて登山道を歩き始める。２回目の渡渉点でハーネスを履き、入渓する。水量は平水で穏やかだ。小滝でウォータースライダーをして遊んだあと、４条６ｍ滝は右の水流から。見た目はキレイだが、ぬめっていてちょっと難しかった。小さな淵で泳ぎの練習もした。

　すっかり晴れて暑くなったので、小さな滝がほどよく出てきて楽しい。滝間のゴーロも斜度があり、石づたいに歩くだけで高度が上がるし、膝に負担がかかるので膝の弱い私にはややきついが、左の壁から落ちるスダレ状のシャワーなど、美しくて癒し系の渓相。７ｍ滝はホールドがあるが落ちるとまずいので補助ロープを出してもらった。あっという間に三俣まで来て、左に懸かる２段１５ｍ滝へ取り付く。テラスへ右から登り、上段は補助ロープで左の水流づたいに登る。ぬるぬるして滑りやすく、持ってきたタワシが活躍した。チムニー状３段１０ｍ滝も補助ロープのお世話になった。スリムな１段目は体をずりずり持ち上げ、２段目は両足を突っ張って登り、３段目は最後、岩がかぶさり、ちょっと苦戦。変化があって楽しい。

　ナメ床が登場し、気持ちいい～と油断して歩いていたら、ヌメっていたためツルンと滑っておでこを打った。ヘタに起きあがると、また滑り落ちてしまいそうでヒヤヒヤした。源頭付近のスラブは乾いた花崗岩で、フリクションがよく効いた。今までのぬめっていた岩よりも登りやすくて「快適に登れる」状態だが、スタンス、ホールドが細かく、緊張した。左寄りに詰めていくと藪こぎもなく大源太山西側の稜線に出た。

　あとは登山道を下山。遠くに米子沢らしき谷が見えた。崩壊があったようで、行きたかった沢なので残念だ。登山道は結構急で膝に負担がかかった。とても暑く、熱中症になるかと思った寸前で沢までたどり着き、水を飲んだ。暑い時はやはり沢が気持ちよい。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

　上越の沢は初めてで、源頭が草原＆明るく開けた沢という勝手なイメージを今まで抱いていたが、イメージ通り気持ちよい沢で楽しかった。だいぶ補助ロープのお世話になってしまったので、もっと精進したい。

05：45 大源太山登山口

08：40 三俣

12：00 稜線

14：05 大源太山登山口

【２段１５ｍの上段】